



日建連表彰2023



第64回BCS賞

新宮市文化複合施設 (丹鶴ホール)

選定理由 【選考委員】
山内弘隆・宮崎 浩・大西正修

丹鶴ホールは、熊野の歴史や文化が色濃く感じられる地に、過去から未来へ時間の層を成すように佇んでいる。新宮市は、古くから熊野信仰の中心都市として栄え、中世には熊野三大社の一つ熊野速玉大社の門前町として発展してきた。敷地はその熊野速玉大社の参道沿いに位置し、正面に新宮城址、側面に世界文化遺産である熊野川を望む。歴史的背景に違わず、建設予定地からは鎌倉〜室町時代の遺構が出土し、建物が建てられる範囲は当初の半分以下に制限されることとなった。プロポーザル案当初の大ホール、小ホールと図書館棟という三棟構成のプログラムを見直さざるを得なくなったことが、結果的に、ほかに例を見ない新宮市ならではの文化複合施設が生まれるきっかけとなった

ようだ。一つしか造れないホールをどのようなものにするのか、市民参加のワークショップのみならず、市を挙げての検討委員会で議論が交わされた。
設計者はこの議論を通じて、分棟で計画していたものを、地域を俯瞰する場としての図書館と、皆が集まり活動する広場としてのホールを積層させることで、これまでの歴史とこれからの地域の未来に応えようとした。上階の図書館は、四周を閲覧コーナーや学習コーナーなどオープンな用途で三六〇度の眺望が得られる空間にしている。新宮城址や熊野川を眼前にすると、その歴史景観に思いを馳せざるを得ない。数多く残る歴史遺産への軸線建築に取り入れ、円環に囲まれた静かな内部を生み出しているところも巧みだ。

一方、接地階に設けられたホールは、幾多の議論の末に生まれた

けに機能の重ね方が新しい。外部からそのまま続く平土間空間でありながら、センターステージ形式にも音楽ホール形式にも転換できる。我々が現地調査に伺った時も、エントランスから直接平土間空間に入り説明を受けた後、外部や図書館を巡回してホールに戻ると音楽ホール形式に転換されていた。バックエンドがオープンなため、通常であればロールバックチェアを収納すべきスペースが無いだけに、驚きの転換であった。コンサート、演劇、美術展、シンポジウム、イベントと

多様な用途で規模の大小にも対応できるこのホールが、想定を上回る稼働率で運営されていることも納得できる。
ホールという動の空間の上に図書館という静の空間を積層させ、平土間ホールに多様な機能を重ね、市民の多様な要望に議論を重ね、歴史的な変遷を経た地層の上に建つこの建築は、熊野の歴史・文化を深耕させ明日への活動を生み出す、市民が拠り所とする「広場」であり続けるだろう。

- 1. センターステージ形式の1階ホール
- 2. 4階図書館からは地域を一望できる
- 3. 平土間の1階ホール

新宮市文化複合施設(丹鶴ホール) 概要

- 所在地 和歌山県新宮市下本町2-2-1
- 建築主 新宮市
- 設計者 (株)山下設計、(株)金嶋一級建築設計事務所、(株)シアターワークショップ、(株)NHKテクノロジーズ、(株)プレイスメディア
- 施工者 村本建設(株)、三和建設(株)
- 竣工日 2021年7月31日
- 敷地面積 9,248㎡
- 建築面積 2,959㎡
- 延床面積 6,428㎡
- 階数 地上5階
- 構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2023 第64回BCS賞受賞作品》 WITH HARAJUKU / Entō / 大阪梅田ツインタワーズ・サウス、及び周辺公共施設整備 / 大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟 / 京都市美術館(京都市京セラ美術館) / シェルター・インクルーシブプレイス コバル / 渋谷 パルコ・ヒューリックビル / 清水建設北陸支店新社屋 / 新宮市文化複合施設(丹鶴ホール) / 那覇文化芸術劇場 なはーと / 日本女子大学目白キャンパス再整備 / Port Plus / 丸紅ビル / ミチノテラス豊洲 / 早稲田大学本庄高等学院体育館

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2023年で64回を数えました。